

2017年3月期 第1四半期 決算発表後 IR 活動での Q&A

Q：全体：前年同期（2015年4月-6月期）比、営業利益率（前期：5.9%→8.2%）が改善した理由は？

A：売上（前期：561億円→622億円）が61億円増加したことに加え、変動費率の改善が寄与しました。

Q：全体：財務面の改善が進んだが、想定よりも早くネットキャッシュになった要因は？今後の見通しは？

A：営業キャッシュフローの大幅な改善により、「今期末まで」の想定より半年以上早く達成できました。また、今後も引き続き、CCC（キャッシュ・コンバージョン・サイクル）や運転資本の改善により、ネットキャッシュを維持できる見通しです。

Q：SE事業：1Q受注が、5月予想から上振れた主な要因は？

A：予想に比べ、ファウンドリーが上振れたことに加え、フラッシュメモリーが堅調に推移したためです。

Q：SE事業：過去2年ほど、営業利益率10%前後で推移しているが、今後、15%、20%以上に上がっていく可能性は？

A：変動費率の改善は今後も可能だと考えています。加えて、新たな技術を搭載した製品リリース、ITによる業務改善などを通じて、さらなる利益率上昇を目指していきます。

Q：GP事業：1Qの営業損失を出した背景は？

A：6月にドイツで開催されました drupa（世界最大の総合印刷機材展、4年に一度）前の買い控えの影響に加え、為替が円高に推移したことによります。2Q以降は、北米を中心とする POD 販売の強化などにより、業績回復を見込んでいます。

Q：FT事業：1Qは前年同期比で、増収増益と好調だったが、今後の見通しは？

A：足元の高水準の受注（3四半期連続、100億円レベル）を考えますと、来期半ばあたりまでは堅調だと言えます。また、今後の受注見通しは、LCDに加えて、OLED 関連の引き合いも続き、順調に推移する見込みです。

以上